

10/17
越戸川「～和光新発見！！ 水辺再生・川あそび！！～ 第19回越戸川まつり」
【主催】和光自然環境を守る会

「黒目川・川まつり」が朝霞市の新高橋下流左岸の河原で開催されました。開催当日は越戸川まつりは赤池親水公園で開催されました。この日は、朝から雨が降ったり、止んだりを繰り返しておりましたが、開会式の後、みどりのそよ風合唱団が清水かつらの童謡を元気いっぱい歌っておりました。毎年恒例の魚とりは雨の影響で、大人達のみで実施することとなり、水槽の中を優雅に泳ぐ魚を観察する水族館という形で楽しみました。他にも出店、川に関するパネル展示、竹細工体験コーナーなどさまざまなブースで子どもと大人の交流を見ることができ、活気づいていました。



パネル展示のようす

第11回 川でつながる発表会

参加無料

主催：新河岸川流域川づくり連絡会 共催：新河岸川流域総合治水対策協議会

平成27年12月13日(日)
10:45～16:00(受付10:30)

狹山市立入曾公民館
〒350-1316 埼玉県所沢市南入曾627番

新河岸川流域内の学生が、川、水、環境について、日頃の活動成果を発表し、さまざまな世代が川について交流する場として、発表会を開催いたします。

水循環・治水をテーマに、狹山市における「昔」の水とのふれあい方や「今」の治水対策等がわかる場所を見学します。知つて楽しみ、見て楽しめる内容となっておりますので、ぜひご参加ください。

【プログラム】

- 10:30 受付
- 10:45 開会
- 11:50 現地見学会
(12:10 昼食)
※昼食、上履きをご持参ください。
- 13:00 発表会/
学校(小学生～大学生)を中心とした川、水、環境についての発表
- 16:00 交流会/
学校、市民団体、行政の川、水、環境についての取り組みに関するパネル展示、講義、クイズラリーなど
- 16:00 閉会

【現地見学会に参加希望の方は
申し込みが必要!(先着40名程度)
氏名・職業/学校・住所・電話番号をご記入のうえ、右記E-mailまたはFAXにてご連絡ください。

【申込先】
新河岸川流域川づくり連絡会事務局
日本工営株式会社 都市・交通計画部 吉田
E-Mail:sogo-bosai@dx.n-koei.co.jp FAX:03-3238-8239

お問い合わせ ■国土交通省荒川下流河川事務所調査課
TEL:03-3902-3220 FAX:03-3902-2346

■日本工営(株)都市・交通計画部 担当 吉田 鎌田
TEL:03-3238-8257 FAX:03-3238-8239

事務局だより

第2回連絡会が開催されました!

9月18日(金)に第2回新河岸川流域川づくり連絡会が開催されました。第2回連絡会では、12月に開催予定の「第11回川でつながる発表会」のテーマや現地見学会の見学施設・コースについて協議しました。

また、勉強会では、事務局より、里川77号の特集記事を活用し、「水循環基本計画」について情報提供を行い、参加者と意見交換を行いました。



第2回連絡会のようす

川づくり連絡会に参加してみませんか?

新河岸川流域川づくり連絡会は、原則第2火曜日または第2金曜日で年4回程度開催します。参加希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などを手紙またはFAXにて下記連絡先までお寄せ下さい。

連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所調査課内)
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん



発行 ● 新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所 ● 東京都北区志茂5-41-1 TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
発行日 ● 平成27年(2015)11月16日

VOL. 78



切り絵 毛利将範

目次

秋といえば、食欲の秋です。オイカワ、モロコ、アユ、モツゴなど川魚の料理に挑戦してみても良いかもしれません。今年の川まつりでは、アユの塩焼きを食している姿も見られました。
今号では、7～10月に新河岸川流域で開催した川まつりのようすを紹介します。また、12月に実施予定の川でつながる発表会の開催案内を掲載しています。特集では、雨水浸透施設を設置することによるさまざまな効果を紹介します。

- P2～4 新河岸川流域の活動報告 in 2015
- P4 第11回川でつながる発表会開催案内
- 事務局だより
- P5 特集：家庭できる！雨水浸透施設設置による効果を知る！



新河岸川流域の活動報告 in 2015



今年度も、新河岸川流域の各地で市民を中心とした川の活動の1つとして川まつりが開催されました。今号では、7月から8月までに開催された川まつりの特徴や、元気に遊ぶ子どもたちのようすを中心に報告します。

7/19 落合川(東久留米) 「第 22 回 わくわく川清掃&川あそび～応援しよう 東北のまち～」【主催】わくわく川掃除&川あそび実行委員会

「落合川・川まつり」が落合川沿い不動橋広場で開催されました。前夜祭は、小雨にも関わらず子どもたちや家族連れの住民が多く来場し、にぎわっていました。和太鼓やアコーディオンの演奏、野外映画会などが行われ、特にアコーディオンの演奏では、子どもが演奏者の音楽に合わせ大合唱して楽しんでいました。翌日の午前中は、川の清掃です。毎年継続して清掃をしているため、ゴミ拾いではなく、ゴミ探しになっているという参加者の声が印象的でした。会場には東京消防署のポンプ車も到着し、ポンプ車による落合川の河川水を使った放水訓練も実施され、参加者に「きれいな河川水は防火用水として使える」と説明がありました。午後からは、ゴムボート乗り、魚とり、竹の一本橋渡りなど様々なイベントを楽しみました。最後に、夢中で遊んだ子ども(水ガキ)を発表して、「熱い」夏の一日が終わりました。



竹の一本橋渡りのようす

7/20 東川(所沢) 「東川・川まつり (身近な川しらべ)」【主催】東川を愛する会

「東川・川まつり」が所沢市立東中学校前で開催されました。埼玉県・所沢市の職員、所沢市立東中学校の教職員やバレー部の部員、地域の方からも多数の参加があり、まずはみんなで協力して、川の清掃を実施しました。次に、魚とりが始まりました。とった魚に関連して、在来種と外来種の見分け方やおいしくいただける川魚の紹介があり、みんな熱心に聞き入っていました。最後に、カヌー体験がありました。子どもだけでなく大人たちも参加し、参加者からの童心に返ったようだという声が印象的でした。



カヌー乗りのようす

7/26 柳瀬川(清瀬) 「2015 きよせの環境・川まつり」【主催】きよせの環境・川まつり実行委員会

「柳瀬川(清瀬)・川まつり」が清瀬市の台田運動広場で開催されました。ペットボトルを利用したボート遊びに参加しようとする大勢の子どもたちも早朝から集まり、時間になるとボートで川遊びをする子どもたちの声が会場に響きました。河畔では、行政・大学・NPO・企業など様々な団体が河川や環境に関するブースを設け、来場者はスタンプラリーを楽しみながら、河川や環境について学んでいました。また、各ブースの運営に地元の高校生がボランティアとして参加するなど、地域の交流の場としての役割も果たしていました。午後から行われたいかだコンテストでは、様々な工夫に富んだいかだが会場を沸かせました。今回から川柳コンテストも実施され、参加者からは環境や河川への思いを込めた川柳が寄せられ、大盛況のうちに閉幕しました。



いかだコンテストのようす

7/26 柳瀬川(志木) 「柳瀬川であそぼう」【主催】NPO 法人工エコシティ志木、埼玉県生態系保護協会志木支部

「柳瀬川(志木)・川まつり」が志木中学校前の柳瀬川沿いで開催されました。開会後に河川敷で行ったゴミ拾いでは、ビンやプラスチックの破片などが多く拾われていました。魚とりでは、ギンブナやウキゴリ、ヌマチチブ、マハゼといった魚だけでなく、スジエビ、モクズカニ、ヤゴなどの水生生物をつかまえる参加者も見られました。続いて行われた笹舟づくりでは、一人一人特徴のある笹舟ができあがり、川に流すと、はじめはゆったりと流れていますが、流れに乗ると一気にスピードアップし、あっという間に遠くまで流れていきました。最後の川渡りでは、川の流れを感じ、流されやすい場所を体感しながら学びました。今年で15年目となる柳瀬川(志木)の川まつり。柳瀬川の自然に親しむ活動が継続的に行われています。



笹舟づくりのようす

8/2 北川(東村山) 「第 20 回 北山わんぱく夏まつり」【主催】第 20 回北山わんぱく夏祭り実行委員会

「北川・川まつり」が東村山市の北山公園で開催されました。開催当日は大変な猛暑にもかかわらず、子どもたちや家族連れの住民が多数来場し、賑わっていました。北川ウォーキングでは川の中に入り、親子または子どもたち同士で生き物の動きを観察したりと、とても楽しそうでした。まつりの催物の中でもカヌー遊びが特に人気で、カヌーの予約券を求める長い行列ができていました。子どもたちは普段乗ることのできないカヌーを使う存分楽しんでいました。午後からは、八国山ヒルウォーキングが行われ、ボランティア団体の方主導のもと、親子で昆虫採集や山登りを楽しんでいました。また、イベントへの参加者だけではなく、主催側の方々も地域住民との触れ合いを楽しんでいるようでした。



川の生き物の観察のようす

8/2 黒目川(新座) 「第 17 回 わいわい川遊び『アユの棲む黒目川をきれいにして川で遊ぼう』」【主催】黒目川流域川づくり懇談会

「黒目川(新座)・川まつり」が新座市の栗原一丁目公園及び公園前の黒目川河原で開催されました。開催当日は、近所の子どもたちや親子連れの方が来場しました。はじめに、河原と川の中のゴミ拾いからスタートし、続けて魚とりを楽しんでいました。魚とりの後は、公園にて主催者による魚の解説があり、子どもたちは熱心に聞き入っていました。また、柳瀬川でとれた体長約1mのウナギの展示もありました。



うなぎの展示のようす

8/9 不老川(入間) 「第 16 回 鳥になろう 魚になろう『大森の池まつり』」【主催】大森の池まつり実行委員会、大森調節池の自然を守る会

「不老川・川まつり」が大森調節池で開催されました。快晴に恵まれ、開会挨拶がはじまる前から、参加者の子どもたちは、走り回っていました。午前中の魚とりでは、主催者が用意した網が一瞬でなくなるほどの盛況ぶりでした。魚・ザリガニとり、カヌー乗り、水鉄砲づくり等多くのイベントがあり、一日中楽しんでいました。また、とった魚を水槽で展示しているブースでは、ヒレの付き方、目の位置、うろこの色等の観点から魚の種類を見分けるためのポイントを子どもから大人まで一緒にになって話していました。一日中遊んだ子どもたちの中には、帰るころには眠くなり、素敵なかみを見ていそうな満足気な顔で会場を後にした子もいました。



水鉄砲づくりのようす

8/23 黒目川(朝霞) 「黒目川・川まつりこどもおとなもハンディのある人もない人も」【主催】黒目川まつり実行委員会

「黒目川・川まつり」が朝霞市の新高橋下流左岸の河原で開催されました。開催当日は雨が降ることもあったにもかかわらず、子どもたちや家族連れの住民が多数来場し、賑わっていました。魚とりでは川の中に入り、親子または子どもたち同士で、多くの魚を捕まえ、その魚についてさかなの教室で学ぶことができ、とても楽しそうでした。まつりの催物の中でも舟遊びが特に人気で、カヌーやゴムボート、タイヤボートに乗るための長い行列ができていました。子どもたちだけでなく、親子で普段乗ることのできないカヌーを楽しんでいる光景が多く見られました。また、イベントへの参加者だけではなく、主催側の方々もカヌーを引いたり、ザリガニ釣りなどを通じて地域住民との触れ合いを楽しんでいるようでした。



タイヤボート乗りのようす

※今回は流域内での活動の一部を紹介しました。流域内ではその他にも様々な活動が実施されています。

また、市民の方々から写真を提供いただきました。





水循環

海が熱せられ、雲ができ、雨が降り、川を流れ、人が利用し、また川を流れ海に戻るという一連の流れのことをいいます。この一連の流れは、山や川などをたどる自然系のものと、人々の生活の中をたどる人工系のものに分けることができます。

利水・治水・環境にわたる水の諸問題を解決し、健全な水循環を構築することを水循環再生といいます。

今号では、健全な水循環を構築し、水害等を軽減することを目的に、国土交通省の事業の一環として推進されてきた「雨水浸透施設」の効果を紹介します。

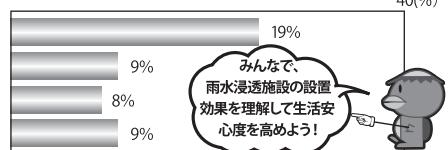


雨水浸透施設の効果の認知度は？

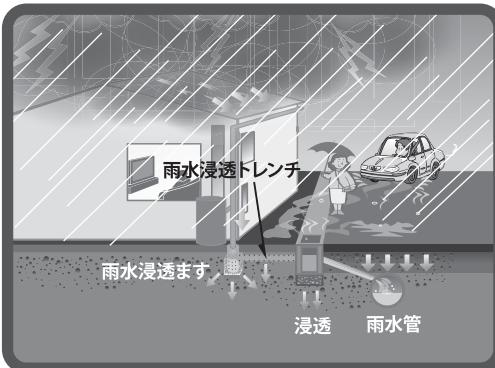
H27.2月、新河岸川流域にお住まいの方400人を対象にWEBアンケートを実施したところ、雨水浸透施設の効果として最も知られている流出抑制効果で19%、それ以外は、10%未満でした。

【アンケート結果】

- ①流出抑制
- ②地下水涵養
- ③汚濁負荷削減
- ④熱環境改善



雨水浸透施設設置の“あり”“なし”で見るその効果!!



● 流出抑制効果 ●

- ・地下に水をしみ込ませることで、河川へ流れ出る水の量を減らす効果。
- 洪水などによる被害を抑えることが期待されるんだ。

